

1111 チーム支援の軸となる教員に求められるものは何か
ー 私立中高等学校ベテラン教員へのインタビュー調査から ー

立命館大学大学院
応用人間科学研究科
対人援助学領域
人間形成・臨床教育クラスター
春日 一美

個別の支援を必要とする生徒の抱える問題は複雑化し、その解決のためにチーム支援の必要性が指摘されてきた。しかし、学校には協働を阻害する教職特性や文化があり、チーム支援の実現は容易ではない。このため、チーム支援の実現を模索して多くの研究がなされているが、私立中高等学校を対象にしたものは公立と比べて少ない。そこで、私学の教員へのインタビュー調査から、チーム支援の実現のために教員に求められていること、すべきことを明らかにし、私学での実践に寄与することを本研究の目的とした。

この目的を達成するため、インタビューデータを、修正版グラウンテッドセオリーアプローチを用いて分析した。複数の教員の語りから普遍的な教員像を生成することで、どのような私学においても可能なチーム支援の実践を明らかにしたいと考えたからである。

この結果、チーム支援の実現には、中心となる教員が、個人の限界を実感するという経験をし、他者尊重や他者受容の姿勢および柔軟に現場に対応できる専門性を形成していく必要があることが示された。さらに、すべての教員が対等に学べる場としてのチーム会議を定期的に関ることが協働的な職場環境作りに有効であることも明らかになった。これらの結果から、体制の有無に関わらず、個人の実践がチーム支援の実現につながる可能性も示唆された。